



シリアの花嫁

もう二度と帰れない。
それでも私はこの境界を越える。

イスラエル占領下のゴラン高原。
若き娘モナがシリア側へ
嫁いでゆく二日の物語。
一度境界を越えてしまうと、
もう二度と愛する家族のもとへは帰れない。
それでも、女たちは未来を信じ、
決意と希望を胸に生きてゆく。

The Syrian Bride



2004年モントリオール世界映画祭
グランプリ
観客賞・国際批評家連盟賞
エキュメニカル賞

2004年ロカルノ国際映画祭
観客賞
2004年フランダース国際映画祭
最優秀脚本賞・観客賞

第21回東京国際女性映画祭参加作品

文部科学省特別選定(成人向) 文部科学省選定(青年向・家庭向)

監督:エラン・リタリス 脚本:スハ・アラブ、エラン・リタリス

出演:ヒアム・アッバス、マクラム・J・フーリ、クララ・フーリ

2004年 | イスラエル=フランス=ドイツ | 35mm | カラー | 97分

アラビア語・ヘブライ語・英語・ロシア語・フランス語 | Dolby SRD | シネマスコープ
原題:The Syrian Bride 後援:イスラエル大使館 配給:シグロ、ビターズ・エンド

www.bitters.co.jp/hanayome





監督 エラン・リクリス

これは私たちみんなの物語なのです。
私たちはみな共通の目的を持っています。
それは、人間的であり続けること、
そしてとりわけ、仲間の声に耳を傾け、
違った物の見方、考え方を理解しようと
常に努めることなのです。

The Syrian Bride

幸福なはずの結婚式の日。

花嫁一家を待ち受けていたのは、行く手を阻む境界だった。

どんなに翻弄されようとも、決意と希望を胸に歩いてゆく女たちの姿が、
私たちの心の琴線をふるわす——。

結婚式の今日は、花嫁モナにとって最高に幸福な日となるはずだ。けれど、彼女も姉のアマルも、悲しげな顔をしている。なぜなら、一度“境界線”（現在の軍事境界線の意）を越えて花婿のいるシリア側へ行ってしまうと、二度と家族のもとへ帰れないのだから。彼女たちをはじめ、家族もみな、国、宗教、伝統、しきたり…あらゆる境界に翻弄され、もがきながら生きていた。モナは決意を胸に、“境界線”へと向かうが…。クライマックスでの、高まる家族愛、未来へ踏み出そうとする姉妹の姿、そしてモナの驚くべき行動に、私たちの目と心が奪われる——。

舞台は、ゴラン高原のマジュダルシャムス村。イスラムの少数派とされるドゥルーズ派の一家族の結婚式の日。に焦点が当てられている。ここは、もともとシリア領であったが、1967年の第三次中東戦争でイスラエルが占領。この地域の多くの住人たちは“無国籍者”となり、新たに引かれた“境界線”の向こう側にいる肉親との行き来さえも不可能にされた分断状態におかれている。

モントリオール世界映画祭グランプリはじめ4冠受賞という快挙！
世界中の観客の圧倒的サポートを得た感動作、待望の日本公開！

監督のエラン・リクリスは、「LEMON TREE (レモンの木)」が、08年ベルリン国際映画祭でパノラマ部門観客賞を受賞した実力派。複雑な中東情勢を背景に、花嫁モナや家族ひとりひとりの一日のエピソードの数々を、時に美しく、時にコミカルに、かつリズミカルに積み重ね、観る者の心を惹きつけて離さない感動作を誕生させた。

リクリス監督は、物語により深みをもたすため、パレスチナ系の女性スハ・アラフとともに、渾身の脚本を書き上げた。みごとに構成力、演出力などが称えられ、04年モントリオール世界映画祭でグランプリ、観客賞、国際批評家連盟賞、エキュメニカル賞の4冠獲得という快挙を遂げた。同年のロカルノ国際映画祭では観客賞を受賞したほか、世界中の観客から圧倒的なサポートを得て、10以上もの賞に輝き、喝采をおくられている。

紛争にうんざりしたイスラエルの監督の描く結婚は、
境界を越えようという意志の表明だ。
モナへの愛は、全ての観客に届くに違いない。——ル・モンド

リクリス監督は、人間、そして“境界線”の
不条理を見せつけ、闘う女たちに声援をおくる。
人間性、熱意、勇気が胸を打つ。——プレミア

ここには希望がある。
人間の強さ、そして女性が最後には
変化をもたらすのだという希望が。
——ロサンジェルス・タイムズ



シリアの花嫁

◆2004年モントリオール世界映画祭 グランプリ・観客賞・国際批評家連盟賞・エキュメニカル賞
◆2004年ロカルノ国際映画祭 観客賞 ◆2004年フランダーズ国際映画祭 最優秀脚本賞・観客賞

監督:エラン・リクリス 脚本:スハ・アラフ、エラン・リクリス 出演:ヒアム・アッバス、マクラム・J・フーリ、クララ・フーリ

2004年 | イスラエル・フランス・ドイツ | アラビア語・ヘブライ語・英語・ロシア語・フランス語 | 35mm | カラー | Dolby SRD | シネマスコープ | 97分

原題:The Syrian Bride 後援:イスラエル大使館 配給:シグロ・ピタース・エンド 文部科学省特別選定(成人向) 文部科学省選定(青年向、家庭向)

www.bitters.co.jp/hanayome

2009年2月21日(土)よりロードショー!

特別鑑賞券1,500円(税込) | ペア券2,900円(税込/お二人様・岩波ホール窓口のみ)

●岩波ホールチケットガイド(ビル1F)の他、
都内プレイガイドにて
●当日料金(税込)1,800円/シニア・学生1,500円

上映時間	月～金	11:30	2:30	6:30
(入替制・自由席定員制)	土・日・祝	11:30	2:30	5:30

岩波ホール

03 (3262) 5252

http://www.iwanami-hall.com/

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線)神保町駅A6出口すぐ上
●JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅・下車徒歩12分 ●神保町交差点角